

1. 目的

近年、科学技術の発展はめざましく、医療分野においても先端技術の高度化、関連職種の特 門分 化が進展し、保健医療を取り巻く社会情勢は大きく変化した。特に、高齢社会の到来に伴って疾病 構造が変化した結果、病気や障害を抱えながら地域社会の中で日常生活を営む人々が急増し、在宅 看護や介護など、保健・福祉・医療にかかわる看護ニーズが拡大し、多様化してきている。また、心 身症や自殺者の増加など、心のケアを必要とする健康問題への支援が求められている。

とりわけ島根県は老年人口比率が高く、わが国の高齢社会の抱える問題を先行して体験している ことに加え過疎化が進行する離島や中山間地域を抱えているところから、住民に豊かな保健・医療・ 福祉サービスを提供するためのシステムを模索している現状にある。

こうした健康問題の社会的・地域的要請に応えていくためには、高度な看護実践能力を持ち、保健・ 医療・福祉の有機的連携を調整する役割を果たせる看護専門職者と看護学研究者の育成が必須であ る。

本研究科は、豊かな人間性と幅広い視野をもち、科学的な視点と看護学の理論に支えられた卓越 した看護実践能力と、創造的な教育・研究能力を持つ人材を育成し、看護学の発展と地域の保健・医 療・福祉の向上に寄与することを目的とする。

2. 目標

各種医療機関、保健・福祉施設、教育・研究機関等で活躍する看護学分野における専門性の高い人 材の育成を行う。

1. 高度な専門職業人の育成

看護の対象となる人々の QOL の向上や看護ケアの質の向上を図るために、深い人間理解と高度 で専門的な知識と技術を有し、専門領域の分野で卓越した看護を提供できる能力を持つ人材を育 成する。広い視野で保健・医療・福祉の資源を有効に活用し、一般看護職者のケアの質を向上させ るための教育的機能を果たすとともに、専門分野の看護実践の場における研究活動を推進し、看 護学の発展に寄与することのできる人材を育成する。

2. 教育者・研究者の育成

学部教育で修得した専門的知識と技術を基盤にさらに学識を深め、看護学の体系化と看護技術 の開発を積極的に推進していく能力を育成する。看護学の最先端の理論と知識、方法を学び、急 速に進展している看護学の高等教育を担う人材を育成するとともに、博士後期課程へ進学し研究 者として自立できる能力を有する人材を育成する。

3. ディプロマ・ポリシー

・人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ、修了生が身につけるべき資質・能力）・学位授与 の方針

医学系研究科看護学専攻では、博士前期課程において以下に掲げる資質・能力を身につけた者に 修士(看護学)を授与します。

豊かな人間性と幅広い視野を基盤として科学的な視点から看護学の学識を教授研究し、卓越した 看護実践能力と創造的な研究能力を持つ人材の育成を目的とします。

1. 看護援助学コース

ヘルスケアシステムにおいて質の高い看護援助を提供するために、看護援助の理論と科学的 思考力を獲得し、新たな看護援助の開発ができる人材を養成します。

2. 看護管理学コース

社会のヘルス・ニーズに対応して、最良の看護を組織的に提供し、計画・組織化・支持・調整・統 制といった諸活動を展開できる人材を養成します。日本看護協会認定看護管理者規程第 2 1 条に定める実務経験を有する者は認定看護管理者認定審査の受験資格を得ることができます。

3. 地域・在宅看護学コース

地域の人々の健康的な生活を維持・増進するための保健・医療・福祉の効果的連携や在宅療 養者の生活の質向上に向けて専門的看護が実践できる人材を養成します。

4. 母子看護学コース
ライフサイクルと生涯発達の視点に立って、様々な健康状態にある小児の特性、妊産婦や子どもの健康問題に関する最新の知見、母子保健施策を通して、母子や家族の健全な発達を支援できる人材を養成します。
5. がん・成人看護学コース
生命、生活および健康にとって重大な課題であるがんや今日的な健康課題・健康障害について理解を深め、看護に関連した理論と方法を学び、患者・家族の QOL 向上をめざした看護実践ができる人材を養成します。
6. がん看護 CNS コース
がん患者とその家族の QOL 向上を目指した高度ながん看護実践能力・適切な倫理的判断力・研究的視点を備えた看護専門職者を養成します。必須科目に加えて、専門看護師の各分野に対応する領域の科目、ならびに指定の科目を履修することにより、課程修了後ながん看護専門看護師認定審査の受験資格を得ることができます。
7. 高齢者看護学コース
高齢者や家族へのケアをコーディネートすることのできるマネジメント能力がありケア開発のできる人材を養成します。
8. 老人看護 CNS コース
老人看護分野において、総合的な判断力と組織的な問題解決力を持って活動し、老人看護実践の発展に貢献できる専門看護師（CNS）を養成します。
9. 助産学コース
自立して正常な妊娠・分娩・産褥期のケアができる能力と妊娠期から分娩期、子育て期まで継続的に母子を支援できる能力をもった助産師を養成します。

・ **目標としての学修成果（学修成果として身につく具体的な資質・能力の項目）**

原則として2年以上在学し、所定の単位(30 単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査に合格することにより 修士(看護学)の学位が授与されます。そのためには、以下の学修成果を上げることが求められます。

1. 修士論文の作成をとおして、体系的な研究方法を身につけていること。
2. 専攻した看護学専門分野の高度な知識と技術を身につけていること。
3. 組織的に問題解決を図るための総合的な判断力とリーダーシップを身につけていること。

・ **DP と特に関わりが深い SDGs17 の目標（大学院課程を通じた資質・能力の修得が、社会における SDGs のゴール達成とどのように関わるか）**

1. SDG「3. 全ての人に健康と福祉を」
看護学専攻博士前期課程修了者は、看護の対象者である「全ての人に健康と福祉」を提供できる社会の実現に寄与することのできる高度な知識と実践力を修得しており、保健・医療・福祉・教育の分野でチームの要として活躍できる基盤を有しています。
2. SDG「4. 質の高い教育をみんなに」
看護学専攻博士前期課程修了者は、研究・臨床経験に富んだ教員より指導を受け、看護の対象者に対する実践者として、また自身が教育する立場に際して、適切かつ良質な指導・指導教育ができる基盤を有しています。
3. SDG「12. つくる責任 つかう責任」
看護学専攻博士前期課程修了者は、研究内容を発展させた開発に際して、開発者またその使用者として責任感を持ち、地球の環境と人間の健康を守るよう行動する基盤を有しています。
4. SDG「17. パートナリシップで目標を達成しよう」
看護学専攻博士前期課程修了者は、実践および研究を通して保健・医療・福祉のあらゆる場において必要な情報・連携を見極め、パートナリシップをすすめる基盤を有しています。